学校番号	1008

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	書道Ⅰ（光村図書）						
副教材等	ペン習字の基礎（教育図書）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

小学校、中学校の授業で学んだ書写と、高等学校で学ぶ芸術としての書道との違いを理解しましょう。
漢字作品は楷書、行書を中心に、仮名作品は連綿を主に、様々な作品を臨書する中で、筆使いや書法を学び、創作作品へと発展させていきます。
多くの作品を鑑賞し、書への関心を深め、書を愛する心を育みます。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】
主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	書の表現方法や形式、書の表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	書写から書道へ	・国語科書写と芸術科書道の違いについて ・姿勢、執筆法について ・用具、用材、運筆法による表現法の比較 ・書体の変遷	a:正しい姿勢、執筆法が身についている。 書体の変遷を理解している。 b:書写の基礎、基本を踏まえ表現を工夫している。 c:書写と書道の類似点、相違点、書体の変遷に興味を持ち、意欲的に取組もうとしている。	ワークシート 提出作品	ワークシート 提出作品	観察 振り返りシート
	漢字の書(楷書)	楷書の成立と唐の四大家 ・虞世南　孔子廟堂碑 ・欧陽詢　九成宮醴泉銘 ・褚遂良　雁塔聖教序 ・顔真卿　顔氏家廟碑 ・牛橛造像記 ・鄭道昭　鄭儀下碑 ○古典臨書を通じて、古典の書風に即した用筆・運筆、線質、字形を理解する。 ○古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する(創作)。 (1学期課題として硬筆「ペン習字の基礎」の楷書範囲を扱う)	a:古典の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて、理解している。(知) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。(鑑・知) 書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために、必要な技術を身につけている。(技) b:古典のよさや美しさを感受し、意図に基づいて、構想し、古典の特徴や書風に即した、用筆、運筆、字形などを工夫している。 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。(鑑) c:漢字の書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現の創造的活動に取組もうとしている。 書のよさや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取組もうとしている。(鑑)	ワークシート 提出作品	ワークシート 提出作品 鑑賞プリント	観察 振り返りシート

二学期	漢字仮名交じりの書	自分の言葉の書を書こう ・漢字仮名交じりの書とは ・創作　表現の幅を広げよう ・漢字仮名交じり書の鑑賞 ・生活の中の書 ○自分で考えた短文をうちわ面に表現する。	a:漢字と仮名の調和した字形、全体の構成と表現効果との関りを理解している。（知） b:目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現の工夫ができている。 c:書のよさや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取組もうとしている。	ワークシート 提出作品	提出作品 作品解説プリント	観察 振り返りシート 作品デザイン創意工夫
	漢字の書（行書）	行書の成立と中国と日本の書 ・王羲之　蘭亭序 ・顔真卿　争坐位文稿 ・空海　風信帖 ○古典臨書を通じて、古典の書風に即した用筆・運筆、線質、字形を理解する。 ○古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する(創作)。	a:古典の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて、理解している。（知） 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。（鑑・知） 書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために、必要な技術を身につけている。（技） b:古典のよさや美しさを感受し、意図に基づいて、構想し、古典の特徴や書風に即した、用筆、運筆、字形などを工夫している。 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。（鑑） c:漢字の書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現の創造的活動に取組もうとしている。 書のよさや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取組もうとしている。（鑑）	ワークシート 提出作品	提出作品 鑑賞プリント ワークシート	観察 振り返りシート

	篆刻	落款と篆刻 ・書作品に於ける落款と落款印の役割 ・落款印の種類 ・制作の手順 ・刻印 （2学期課題として硬筆「ペン習字の基礎」を扱う）	a:書作品を鑑賞し、落款の入れ方を理解できている。 作品における落款の役割と効果を理解できている。 落款における印の使い方を理解できている。 b:篆刻の制作を理解し、落款印を彫ることができた。 c:主体的に印の制作活動に取り組もうとしている。	ワークシート 提出作品	制作プリント 提出作品	観察 振り返りシート
三学期	仮名の書	日本の書仮名の書 ・仮名の成立 ・仮名の用具用材 ・仮名の筆使い ・平仮名の単体 ・ひらがなの字母（小テスト） ・連綿 ・変体仮名（小テスト） ・伝藤原行成「蓬莱切」 ・伝紀貫之「高野切第三種」 ・古筆を活かした創作 ○臨書を通じて、古典（平仮名・変体仮名・片仮名）の書風に即した用筆・運筆、線質、字形を理解する。 ○古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫しながら、表現する（創作）。 （3学期課題として硬筆「ペン習字の基礎」を扱う）	a:古典の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて、理解している。（知） 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。（鑑・知） 書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために、必要な技術を身につけている。（技） b:古典のよさや美しさを感受し、意図に基づいて、構想し、古典の特徴や書風に即した、用筆、運筆、字形などを工夫している。 創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。（鑑） c:仮名の書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現の創造的活動に取組もうとしている。 書のよさや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取組もうとしている。（鑑）	ワークシート 小テスト 提出作品	提出作品 鑑賞プリント	観察 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度